



NPO法人こどもとむしの会

平成25年度（2013年度）事業報告書

## A 子どもと虫に関連する普及啓発事業

### A-1 いどうこんちゅうかん

「いどうこんちゅうかん」とは、子どもたちのもとへ「ほんものたいけん」を届けるマジックボックスです。教科書や映像から得た知識ではなく、ほんもののいきものを自分の手で見て触るという五感を使った体験を通して、好奇心旺盛な子どもたちに驚きと感動と発見を届けます。

平成25年度は16ヶ所で開催しました。神戸市児童館派遣事業は23年度から3年目。評判がいいということで2館増依頼となり、6児童館での開催となりました。

(吉岡)

#### 2013年度いどうこんちゅうかんの内容

日時	会場	来場者数	スタッフ氏名	備考
6月8日	仙台市農業園芸センター（仙台市）	1100人 / 3000人 (体験者/フェスティバル来場者)	前田慈・小林・阪上・吉岡・仙台ユース3名	「こども☆ひかりフェスティバル in せんだい」に参加。東北被災地支援。昨年に引き続き2回目の仙台開催。仙台ユース（現地募集大学生ボラ）とともに活動。
6月9日	こむこむ館（福島市）	540人 / 2653人 (体験者/フェスティバル来場者)	前田慈・小林・阪上・吉岡・福島ユース2名	「こども☆ひかりフェスティバル in ふくしま」に参加。昨年同様、放射線というデリケートな問題があるので、福島では神戸・奈良・仙台で採集した虫を使用。子どもたちが昨年よりのびのびとしていた。
6月28日・30日	岩手県立博物館（盛岡市）	29日：子ども570人 / 大人950人 (来場者2500人) 30日：子ども853人 / 大人1372人 (来場者3500人)	前田慧・池田・吉岡・吉田（岩手県博）・岩手県博インターシップ3名	「こども☆ひかりフェスティバル2013 in いわて」に参加。今年は岩手県でも開催。森が豊かで平和な盛岡だが、福島から避難して来ている方も出会う。こういう現実もあるのだと思う。
7月20日	J A兵庫六甲（川西J A総合センター）	24家族（子ども32名 / 大人28名）	大谷・中瀬・阪上・吉岡	「あぐりスクール」という年間申し込み制の食育プログラムのうちの半日の依頼。虫好きの子どもたちばかりではなかったので、飽きっぽく、苦勞する。
8月9日	神戸市立地域人材センター（旧ふたば小学校 / 長田区）	子ども49人（大人約20人）	大谷・中瀬・船元・菅澤・吉岡	夏休み子供向けプログラムのひとつを昨年に引き続き担当。地域の小学生親子・幼稚園児が申し込み制で参加。参加費300円。全員にコンパスノートと缶バッジ（実費をいただく）。
8月10日	しあわせの村（温泉健康センター-玄関ホール）	子ども 約250人・大人 約200人	久保・齋藤・中瀬・前田慧・小林・船元・中谷・菅澤・吉岡	昨年同様「温泉健康センター」内での開催。プールが工事中だったため、「いどうこんちゅうかん」目当てで来てくださった方も多数。今年も準備段階から人だかりができる。子どもばかりではなく、その両親・祖父母たちもかなり楽しんでた。

日時	会場	来場者数	スタッフ氏名	備考
8月20日	丹波少年自然の家	小1~4年生 30名	足立・大塚・八木・阪上・高橋・中谷・菅澤	「わんぱくキッズのワクワクキャンプ」の昆虫採集プログラムの担当。
8月20日	神戸市立桃山台児童館（垂水区）	85人（小学生78人・幼児4人・大人3人）	内藤・前田慧・前田慈・小林・船元・岩橋・吉岡	直接依頼による4年目の開催。恒例の内藤先生のお話では子どもたちが積極的に質問する。楽しみ方を子どもたちのほうが心得ている。
8月21日（午前）	西脇こどもひろば（垂水区）	46人（小学生27人・幼児8人・大人11人）	大谷・中瀬・前田慈・船元・吉岡	児童館派遣事業。3日間で抽選で当たった6館に行く。学生スタッフの「むしむし小話」も定着。子どもたちの人気のコーナーとなる。カブトムシが飛んで大よろこび。
8月21日（午後）	神戸市立井吹西児童館（西区）	65人（小学生62人・幼児2人・大人1人）	大谷・中瀬・前田慈・船元・吉岡	児童館派遣事業。自分で採ってきた虫をカヤに放して大喜び。大谷先生の質問コーナーでもたくさんの質問が出る。
8月22日（午前）	神戸市立池田児童館（長田区）	53人（小学生50人・幼児2人・大人1人）	八木・中瀬・前田慈・船元・阪上・吉岡	児童館派遣事業。事前に送った3種のぬりえですばらしい樹木の作品を作ってくださっていた。子どもたちの「いどう」への前向きな姿勢もうれしい。
8月22日（午後）	神戸市立夢野児童館（兵庫区）	56人（小学生48人・幼児5人・大人3人）	八木・中瀬・前田慈・船元・阪上・吉岡	児童館派遣事業。学童保育以外の来館者の多い児童館。1~6年生が来る。今回目玉の両面ガラスの標本を見てのぬりえは好評。真剣に観察していた。
8月23日（午前）	神戸市立星陵台児童館（垂水区）	75人（小学生62人・幼児5人・大人9人）	大谷・中瀬・前田慈・船元・阪上・岩橋・吉岡	児童館派遣事業。東舞子コーナーからも26人の小学生を引率してきて下さる。保護者も8人が参加。カヤが人気だった。
8月23日（午後）	神戸市立岩岡児童館（西区）	小学生53人	大谷・中瀬・前田慈・船元・阪上・岩橋・吉岡	児童館派遣事業。6館をめぐり阪上くんの『むしむし小話』もレベルアップ。児童館での開催は子どもたちが「楽しむぞ!」という雰囲気がいい。事前にいろいろな取り組みをしてくださっているおかげと思う。
9月22日	ひょうご環境体験館（佐用町）	子ども24人・大人26人	八木・中瀬・船元・吉岡	館内の「エコハウス」にて実施。いいお天気の中、全員で秋の山へ昆虫採集にも出る。
11月5日	神戸市立桃山台児童館（垂水区）	小学生18人	近藤・八木・吉岡	近藤さんの「むしのおえかき」の「いどう」版。初めての試み。子どもたちはすごい集中力で数枚のむしの絵をていねいに描く。「大人は横から何も言わず、子どもにのびのび自由に描かす」がテーマ。子どもたち素直な観察眼と表現力に驚く。



いどうこんちゅうかんのスナップ

## B 地域の自然環境とまちづくりに関連する調査研究事業

### B-1 神戸市北区のチョウ類調査

新名神高速道路計画路線が神戸市北区道場町を通過するにあたり、工事施工前・工事中・工事完了後にかけてギフチョウの生息状況及びチョウ類相の調査を行い、同工事による環境の改変が及ぼす影響を評価するとともに、必要であれば保全対策等についての提案を行う。調査は平成22年4月から開始され、平成25年度は4年目で、工事実施中の調査であった。

調査内容は、ギフチョウについては、4月に成虫の生息状況調査を計画路線周辺において、5月に卵・幼虫調査を食草であるカンアオイ群落において、それぞれ3日実施した。またチョウ類群集調査のため、4～9月にかけて5回モニタリング調査(ルートセンサス法・定点観察法)を実施した。

平成25年度は、ギフチョウの成虫調査では3個体を確認、卵・幼虫調査ではカンアオイ群落9地点のうち5箇所において24卵塊186卵と幼虫14個体を確認し、工事による改変区域外でもある程度の個体群が維持されていることが確認された(工事による改変対象区域内は、別途調査が行われているが、本会の調査対象外である)。

モニタリング調査では26種152個体を確認した。このうちルートセンサス法で20種59個体を確認した。重要種としては、計画路線から少し離れた露岩地に生息するクロツバメシジミを確認した。また、定点調査では20種93個体を確認した。平成24年度夏季から工事の影響により定点調査地点付近が改変されたが、以降は周辺のチョウ類の個体数が減少したことを確認した。今後も調査を継続し、工事中～完了後の変化を考察するためのデータとする予定である。

(吉田・近藤)

調査月日	調査内容	調査方法	スタッフ数
4月8日	ギフチョウ	任意採集法	20人
4月10日	成虫確認調査	マーキング法	
4月12日			
5月8日	ギフチョウ	現地踏査法	16人
5月13日	卵・幼虫確認調査		
5月16日			
4月16日	チョウ類群集の	ルートセンサス法	20人
5月24日	モニタリング調査	定点観察法	
6月24日			
7月19日			
9月11日			



## B-2 きべりはむしの編集発行

2013年度に発行した『きべりはむし』の概要

きべりはむし 第36巻 第1号

- ・2013年12月25日発行
- ・頁数31、報文6、短報6、付録2

きべりはむし 第36巻 第2号

- ・2014年3月25日発行
  - ・頁数30、報文4、短報2
- (中峰)

## B-3 ミニ図鑑『ひょうごのばった』編集発行

- ・2014年4月25日 第1刷 3000部印刷・発行
- ・兵庫県内に分布するバッタ亜目36種1亜種を網羅
- ・正会員には無償配布
- ・頒布価格は300円

(中峰)

## B-4 みんなで調べよう（初蝶リレー・セミの初鳴き）

### (1) 初蝶リレー

「みんなでつなぐ初蝶リレー」は、その春に初めて見られた蝶に関する情報を、こどもとむしの会会員から募り、それを会員間で共有しようという試みである。早春の蝶の出現時期に関する記録は、これまで愛好家個々の観察記録としては存在したが、多くの人が共有する状況にはなかった。多くの会員が観察の目をつなぎ、共有することで、近畿地方の広い範囲で蝶の出現時期を知ることができる。これを経年的におこなうことによって、各年次の気象条件の相違による早春の蝶の出現時期の変動を明らかにできる可能性があり、気候変動と昆虫の生態という大きな研究課題にも、寄与できるであろう。それだけでなく、初蝶リレーは「蝶の出現への期待感が高揚する時期」に実施される事業であり、これに参加することで、蝶をはじめとする自然全体への関心を高めることにもつながるであろう。

**実施方法**：2月4日（立春）から、4月6日の昆虫館オープン（虫開き）までの間に、会員が目撃した蝶の種類、日時、場所を、昨年同様Eメールで担当者（久保）に伝えるという方法で実施した。担当者は寄せられた情報をとりまとめ、「初蝶ニュース」として週に1回メール配信したほか、「この春羽化の初蝶」が報告された日には、「初蝶ニュース号外」を配信した。配信回数は、号外も含め11回であった。

**成果**：期間中、33人の会員から、22種の蝶および蛾に関する情報が寄せられたほか、その他の昆虫4種についての情報も寄せられた。昨年の初蝶リレーと比較して、2014年は、①小学生からの情報が増加した、②蛾やその他の昆虫に関する情報が増加した、という点に特徴がある。これは、蝶の観察を目的にフィールドへ出る機会が増加したことと、蝶を「入口」とした昆虫全般への関心が深まったからであろうと推測される。

**今後の展望**：質・量ともに昨年以上の情報が寄せられたことは、担当者にとっても驚きであった。その中には、記録の少ない「イシガケチョウの越冬個体」の目撃や、個体数が多くないと思われる「ナニワクビグロクチバ」の目撃のように、分布を研究する上で重要と思われる成果も含まれている。ほぼ無予算で実施できる事業でもあることから、今後は、昆虫館がある佐用町内の小学校に参加を呼びかける、会員外からの情報も募るといった展開も考慮しうるだろう。なお今回の成果も、2013年同様、詳細を『きべりはむし』誌上に報告し、会員間で共有する予定である。

### 【補足】

初蝶リレー2014 結果

**情報を寄せてくれた人** 33人 (実数)

**情報が寄せられた蝶**

シロチョウ科 モンシロチョウ・モンキチョウ・ツマキチョウ・キタキチョウ

アゲハチョウ科 アゲハチョウ

タテハチョウ科 アカタテハ・ヒメアカタテハ・キタテハ・ルリタテハ・イシガケチョウ

シジミチョウ科 ルリシジミ・ベニシジミ・ムラサキシジミ・ウラギンシジミ

テングチョウ科 テングチョウ

**情報が寄せられた蛾**

トビモンオオエダシャク・種不明フユシャク・スモモキリガ・クロテンキリガ・ナニワクビグロクチバ・マエアカスカ  
シノメイガ

**その他の昆虫**

クロゴキブリ・ビロードツリアブ・ナミテントウ・アオモンイトトンボ・ツチイナゴ  
(久保)

**(2) セミの初鳴き**

兵庫県には13種のセミが分布し、鳴き始め、鳴きおさめの日は種ごとに異なる。初めて鳴き声をきいた日、場所等に関する情報を、こどもとむしの会会員等から募り、それを会員間で共有しようとする試みである。毎年実施することで、これまで明らかではなかった種ごとの分布の変化や鳴き始め、鳴きおさめ時期の変動について長期的な情報も得れる。

**実施方法**：会員個々が、鳴き声をきいたセミの種類、日時、場所をEメールによって担当者(近藤)宛てに連絡する。担当者は寄せられた情報をとりまとめて、月に3回程度「セミニュース」としてメール配信する。

**成果**：期間中に26人の会員から、12種のセミに関して累計約100件の情報が寄せられたほか、セミ以外の鳴く虫に関する情報も多数寄せられた。

その成果はきべりはむし36(1)に掲載した。

(近藤)

## C 昆虫館等の運営支援事業

### C-1 佐用町昆虫館の管理運営

2008年に閉館となった兵庫県昆虫館に代わり、2009年に新たに歩み出した佐用町昆虫館。2013年は5年目に当たり、「この一年が節目になるよう、これまでを振り返りながら、さらなるステップアップを求めて、さまざまな活動にチャレンジしよう」を基本方針にスタート。一日館長、サブ館長らがあるべき姿を求めて、努力を重ねた。

しかし、入館者数は、前年度より923人減の3934人と伸び悩んだ。5、6月は増えたが、肝心の7、8月が天候に恵まれず、880人減ったのが響いた。また、開館日が71日と、前年度より8日減ったことも影響した。入館者数は、記帳者をカウントしているが、記入しない来館者が1割程度いる。

管理面では、昆虫館担当理事や、昆虫館と子ども達との触れ合いを心から愛するスタッフを中心に、3月から開館準備を始め、館の維持管理や園庭の増設、植物の栽培、池、水路などの整備を進め、生物多様性が実現するよう配慮した。開館後は、別記の「こども昆虫道場」をはじめ、「むしのお絵かき教室」「昆虫切り絵」「昆虫紙芝居」「昆虫面白クイズ」「電子顕微鏡体験」を行った。開館期間中の一日館長らスタッフの総数は、のべ249人と一日平均、3.5人に上った。

子ども達が、一日館長らのリードの下、昆虫を通して自然の素晴らしさ、命の不思議に触れている。リピーターが多く、滞在時間が長いことでも、佐用町昆虫館の活動が、子ども達の知力、体力、情緒面の成長にとって有意義なものであることを示している。

11月の閉館後も、館内の大掃除や大量の落ち葉の処理などに多くのスタッフが励んだ。それぞれ、スタッフ側にとっても昆虫館が「なくてはならものになった」というのが、5年間を終えての実感である。

館外活動では、7月に佐用町の依頼で「ひまわり祭り」に参加、2000人もの親子連れに「ふるさとの昆虫と身近な生き物」に触れてもらった。明石市内では9月に、幼稚園で出前昆虫教室を開いた。

(三木)

#### 佐用町昆虫館の利用者数等

月	開館利用		閉館時利用		講座等		出前教室		計	備考
	開館 日数	記帳 者数	日数	人数	件数	人数	校 園 数	人 数		
4	9	245							245	むし開き
5	10	484			1	30			514	こども昆虫道場
6	10	440			1	35			475	こども昆虫道場
7	9	841	1	44	1	34			919	大阪・さくらんぼ保育園、こども昆虫道場、ひまわり祭り出張昆虫館（約2000人参加）
8	12	1107	1	38					1145	神戸・光の丘幼稚園融資、電子顕微鏡1回、14～16日（水、木、金）お盆の臨時開館
9	12	407	1	11	1	35			453	こども昆虫道場、明石・江井ヶ島幼稚園に出前昆虫教室
10	9	145			1	38			183	こども昆虫道場、むし納め
計	71	3669	3	93	5	172	0	0	3934	



## C-2 第4期佐用町昆虫館こども昆虫道場

こども昆虫道場は「ほんものたいけん」をスローガンに昆虫の採集と観察をする講座です。

平成25年度で第4期目になります。5月から10月の月1回（8月はお休み）、5回セットの講座を開催しました。参加費は1500です。参加者の反応は良好でした。

トム・ソーヤスクール企画コンテスト（日清食品の助成事業）に採択され10万円の助成金を受けました。

（金子）

実施日時	場所	講師	参加者数	スタッフ数
5月26日	佐用町昆虫館	内藤親彦・大谷剛	36人	6人
6月23日	佐用町昆虫館	東輝弥・大谷剛	42人	7人
7月6日	佐用町昆虫館	八木剛・大谷剛	40人	4人
9月8日	佐用町昆虫館	岡本俊治・大谷剛	40人	4人
10月14日	佐用町昆虫館	宮武頼夫・内藤親彦	40人	6人

スタッフ数は講師含む



## D 管理運営

- ・ 2013年5月、会員の研修に資するため、「講演会と昆虫たいけん、ムシのお話 5つ星レストラン：春の献立」と題したプログラムを、神戸大学において開催した。

日時	会場	内容	参加者数
2013年5月6日 10時～17時	神戸大学 瀧川記念学术交流 会館	昆虫研究者を招聘して講演会を開催するとともに、NPO等による展示や昆虫生体を用いたワークショップを実施。	約300名



- ・ 2013年5月、理事会において、旅費交通費規定の改正を行った。
- ・ 2013年6月、総会において、役員の変更を行った。